



5

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の 承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、空中 写真、数値地図25000(地図画像)、数値地図50m メッシュ(標高)及び基盤地図情報を使用した。 (承認番号 平29情使,第298号)

第1.3. -153図 栃木県那珂川町大那地付近リニアメント周辺の地質図







第1.3-154図 栃木県那珂川町大那智付近リニアメント周辺の地質断面図



・「5万分の1地質図幅「磯浜」(1975)」によると、大谷川沿いに小断層が認められ、小断層の伸びの方向が前面の谷の方向とほぼ一致することから、段丘崖の形成期に生じた 非構造性の表層滑落としている。

・「5万分の1地質図幅「那珂湊」(1972)」によると、那珂川北岸の台地の先端部に小断層が認められ、段丘崖形成時における表層部の滑落にともなう非構造性のものであると している。

涸沼周辺の小断層(1)

6 - 1 - 360

図幅に記載されている小断層の性状を確認するため、大谷川周辺の小断層について地表地質調査を行った。



各露頭位置及び断層の走向・傾斜(国土地理院による10mメッシュDEMに基づく段彩陰影図)

段丘崖に認められる断層は、正断層センスであり、走向はいずれも段丘崖の方向と調和的である。

6-1-361

第1.3-155図(2)

涸沼周辺の小断層(2)



・断層の延長方向に分布するM1段丘面にリニアメントは判読されない。
・変位センスや走向の状況も踏まえると、これらの断層は非構造性の表層滑落と判断される。

6-1-362

第1.3-155図(3)

涸沼周辺の小断層(3)

①大貫池北方地点



①大貫池北方地点



<u>露頭スケッチ</u>

• F-1及びF-2断層を詳細に観察した結果は以下のとおり。

- F-1及びF-2断層の走向と段丘崖の斜面の方向は、NE-SWで概ね一致しており、傾斜は最上部で約56°W、露頭下方に向かって緩くなり、最下部で約36°Nと、円弧状の形態を呈する。
- F-1及びF-2断層の鉛直変位量はいずれの対比基準面についても概ね同様で、約50cm北西側低下であり、変位の累積性は認められない。
- また、これらの断層の上盤側には、ほぼ同様な走向で主に高角度傾斜の小規模な断層が多数認められる。これらの断層は主に南東側落下数cmの変位を示し、幅1mm程度開口している部分もあり、上端、下端はF-1 及びF-2断層を越えて連続しない。
- F-1断層とF-2断層間の砂層の葉理構造は、これらの断層によってF-1断層に向かって階段状に低下していることから、F-1断層とF-2断層間に見られる小規模な断層は、上盤が南東側に傾き下る回転により形成されたのと推測される。

→S
砂礫
File
少礫
2 - Tomato
for any and
頃スケッチ凡例
断層
地層境界
葉理
: 走向傾斜測定位置
: 鉛直変位量
A PARTY BAR
1m

B態を呈する。 度開口している部分もあり、上端、下端はF-1 上盤が南東側に傾き下る回転により形成され 第1.3-155図(5) 涸沼周辺の小断層(5)

②海老沢地点



- ・露頭の西端にF-3及びF-4断層が認められる。
- F-3及びF-4断層を詳細に観察した結果は以下のとおり。
- ↓ F-3及びF-4断層は段丘崖の斜面表層部に位置し、斜面の傾斜方向へ変位する正断層である。
- F-3及びF-4断層の走向と段丘崖の斜面の方向はN-S方向で概ね一致しており,傾斜は上部で約38°W,露頭下方 に向かって緩くなり,下部で約34°Wと円弧状の形態を呈する。
- 鉛直変位量は約25cm西側低下である。



### である。 は上部で約38°W,露頭下方

### 1m

第1.3-155図(6)

0

涸沼周辺の小断層(6)

## ③横田東方地点



- 露頭の西端にF-5断層が,東端にF-6断層が認められる。
- F-5及びF-6断層は、段丘崖の斜面表層部に位置し、斜面の傾斜方向へ変位する正断層である。
- F-5及びF-6断層の傾斜は下方に向かって緩くなり、円弧状の形態を呈する。
- ・F-5断層の走向と段丘崖の斜面の方向はNNE-SSW, F-6断層の走向と段丘崖の斜面の方向はWNW-ESEであり、 斜面方向と概ね一致し、両断層は直交関係に位置している。
- F-5及びF-6断層の近傍に小規模な断層が認められる。



涸沼周辺の小断層(7)

第1.3-155図(7)

# ③横田東方地点



• F-5断層を詳細に観察した結果は以下のとおり。 • F-5断層の走向と段丘崖の斜面の方向は, NNE-SSWで概ね一致しており, 傾斜は最上部で約 50°W,露頭下方に向かって緩くなり、最下部で約32°Wと、円弧状の形態を呈する。 • 鉛直変位量は,約2m西側低下である。

NW← →SE



<u>露頭拡大(F-5)</u>

1m



涸沼周辺の小断層(8)